



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	献呈のことば
Author(s)	浅井, 正三; Asai, S
Citation	基督教学, 13, 1-2
Issue Date	1978-09-14
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46359
Type	other
File Information	13_1-2.pdf



献呈のことば

浅井正三

今回、北海道基督教会学の機関紙「基督教学」第十三号を、中川秀恭先生の古稀記念号として、先生に献呈する運びとなったことは、我々学会員一同の心から欣びとするところであります。

昭和二十二年、中川先生が北海道大学宗教学助教授として着任されて以来昭和四十七年離道されるまでの二十五年間に、先生が本道の基督教会界にもたらされた功績並びに育成された人材の数々が、先生の存在の重さを実証してあまりあるといえます。

思えば、去る昭和二十七年春、中川先生を中心にして、広く全道の基督教会関係者、及び学校教育にたずさわるキリスト者呼びかけ、基督教会会を結成しようとの気運が高まって参りました。その結果、多くの方々の御賛同を得て、「北海道基督教会設立総会」が同年六月十六日、北大で開催され、発会記念講演会には、石原謙先生を講師としてお迎えする栄を得たのであります。

爾来、学会は、年中行事として「研究発表会」と「公開講演会」を継続開催して参りました。

更に昭和四十一年に、学会の機関紙「基督教学」が発刊されて今日に到っております。一地方の「学会」でこのような機関紙を持っているのは全国数多くの学会中、北海道だけであることは、我々会員の誇りとするところであります。

このような経過を辿って今日を迎えた本学会の来し方を振り返ってみますと、その結成の当初から、以後の発展の全段階を通じて、中川先生の存在と御尽力がいかに大きなものであったかは、誰の目にも、れき然たるものがあります。先生は昭和四十七年本道を去られるまで「会長」の重責を荷って下さいましたが、国際基督教大学教授として東京へ去られた後も、ひきつづき「名誉会長」として本学会の発展のために陰に陽に御支援下さっておられます。

中川先生が古稀を迎えられたのを好機に、「基督教」第十三号を記念号として先生に献呈させて頂くことが、本学会員一同にとっていかに大きな喜びであるかは、本号の執筆陣の多彩さが、それを証して余りあると信じます。

なお、先生は現在日本基督教学会の理事長の要職にあられ、日本全体の基督教学発展のために尽力しておられることとあわせて、先生の今後益々の御健闘と御壮健を祈ってやまない次第であります。